

## 地域再生計画

### 1．地域再生計画の名称

市民が主役「京丹後の魅力」発信計画

### 2．地域再生計画の作成主体の名称

京丹後市

### 3．地域再生計画の区域

京丹後市の全域

### 4．地域再生計画の目標

本市は、平成16年4月1日、旧峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町及び久美浜町が合併して誕生した。本市は、京都府の北端部の丹後半島に位置し、人口65,129人（平成17年4月1日現在）、面積501.84km<sup>2</sup>を有している。

本市は、ブナ林やアベサンショウウオが生息するなど多彩な生態系を有する山々があり、海岸線は山陰海岸国立公園と若狭湾国定公園が交わり、鳴き砂で有名な白砂青松の琴引浜、リアス式の海岸線が美しい丹後松島、そして大自然が作り上げた天かける橋「小天橋」など、大変風光明媚なところとなっている。

丹後半島は、この海を通して古代より大陸・朝鮮半島との交流が活発で、弥生時代の先進技術を示す水晶玉造工房跡、約2,000年も前の中国貨幣、女王卑弥呼が魏に使者を送って銅鏡百枚を得たうちのひとつともいわれる鏡、日本海側最大規模の前方後円墳、準構造船をかたどった船形埴輪の出土、農耕・機織・造酒技術の伝来をうかがわせる羽衣伝説、古代の開化天皇や垂仁天皇との婚姻関係など、古代丹後王国を思わせる発展の跡が残されている。

その勢力は、大陸と大和政権の交流の動脈上にあって、丹後の海辺と川の流域を結び、独自の経済文化圏を形成していたといえる。やがて中世を経て近世に入り、海を舞台にした廻船業や丹後の気候と先人の努力が生んだちりめんの活況をはじめとして、この地域は発展を続けてきた。

一方、紀元前200年に中国大陸の秦の始皇帝の命令で、道教の方士（宗教的な権威を持ち、かつ薬を調合できる医療技術者）である徐福が不老長生の薬材を求めて丹後半島に上陸したこと、そして薬材である多くの薬草を発見するなど、丹後の山々には大変多くの薬草が自生していることがわかっている。

このように地域資源が豊富な京丹後市ではあるが、合併により地域が広域化したことで、本市の歴史性や豊富な地域資源などの「丹後の魅力」について、学ぶ

環境づくりを市民から求められている。また、年間約200万人の観光客が訪れる本市では、観光の振興からも市域全域の案内ができるガイドの養成が急務となっている。

さらに、丹後の山にはたくさんの薬草が自生していることから、この特徴を活かすべく、中国最大の薬草市場を有する中国亳州市に視察団を派遣し、友好交流に向けた取り組みを進めている。

今後は、日本人の健康志向に合わせ、温泉と薬草、豊富な海洋資源を組み合わせ、療養・保養のネットワークを形成するとともに、森林浴や薬膳料理など、心と体の健康を考えた「癒しの空間」づくりを推進するとともに、地域の特徴を丹後学としてまとめ、市民自身が丹後の魅力を再認識することにより、市域外の人たちに発信したり、市民すべてが訪れた人をもてなす心の醸成を図ることで、さらなる交流人口の増加をめざす。

#### (1) 健康をテーマとした新しい形の観光振興

近年では観光のスタイルも変わり、グループや家族でその土地の自然や歴史、文化、人情に触れることで、心を癒し安らぐ参加体験型のツーリズム志向（グリーンツーリズム、ブルーツーリズム、タウンツーリズム、エコツーリズム）に変化してきている。あわせて、近年は健康志向が高まっていることから、薬草を利用して、自然環境や温泉とのイメージづくりを定着させ、積極的に活用していく必要がある。

これらの状況を踏まえ、市では地域資源である温泉、薬草、森林等を有機的に結び、「健康」に関する様々なサービスを提供することで、丹後の魅力を実感してもらい、さらなる集客を図る。

#### (2) 「丹後学」のすすめ

「丹後の魅力」を学ぶ環境づくりの一環として、独自の経済文化圏を形成していた丹後王国の歴史や、豊かな自然環境、伝統的な技術や産業などを体系的に「丹後学」としてまとめ、これを学ぶことで市民にもてなしの心を育むとともに、市民が主体的に「丹後の魅力」を理解し、その魅力を発信する実践力を育む。

また、多くの市民との連携などを通じて、「丹後学」の研究振興と普及に努めるとともに、市民が本市の歴史文化に親しみ、次代へ継承してゆけるよう、「丹後学」の活用を推進する。

#### (目標)

- ・丹後学の「基礎講座・応用講座」の受講生40人(年間)
- ・「丹後の魅力」発信メンバー(ボランティアガイド)200人(5年間)
- ・市民対象オープンカレッジの開催 1回(年間)
- ・京丹後市文化財博士の登録者数 50人(5年間)
- ・観光入り込み客数 200万人 300万人(5年間)

## 5 . 目標を達成するために行う事業

### 5 - 1 全体の概要

京丹後市では、古代より受け継いだ歴史文化や自然環境といった地域資源について、市民が学べる環境を作ることにより、丹後を訪れる方へのおもてなしの心の醸成と、市民が主体となって「丹後の魅力」を理解し、内外に発信できる環境づくりに努める。

また、地域資源のひとつである薬草を通じた交流イベントの推進、地域資源を「丹後学」として体系づけて、子どもからお年寄りまで、だれでも気軽に学べる環境づくりを推進する。

これらの環境づくりを通して、市民自らが「丹後の魅力」を熟知し、その魅力を内外に発信することで、新たな交流人口の増加を促すとともに、温泉、薬膳料理、森林浴といった組み合わせによる「癒しの空間」を提供することで、「健康」に重点をおいた新しい形での観光振興を図る。

### 5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし。

### 5 - 3 その他の事業

#### 5 - 3 - 1 地域再生基本方針に基づく支援措置による取り組み

地域再生に資するNPO等の活動支援（内閣府）：C2001  
市民活動団体等支援総合事業（モデル活動支援事業）

「健康」をテーマとした新しい形の観光振興を図る前提として、市民自らが「丹後の魅力」を理解するために、NPOが主体となって、以下の事業を実施する。

#### （1）オープンカレッジ（ボランティアガイド等養成講座）の実施

他の地域にはない京丹後市、丹後半島の歴史と地域特性の魅力をクローズアップし、京丹後の魅力を市民が知ることによって、市民にもてなしの心を育むとともに、市民が主体的に京丹後の魅力を理解し、その魅力を発信する実践力を育むため、NPOが市内でオープンカレッジとしてボランティアガイド等の養成講座を実施する。また、NPOが主体となり、広く市民からの意見を取り入れ、丹後半島観光スポット40の選定、テキストおよびガイドブックの作成を行う。

#### （2）健康をテーマとした「シンポジウム」の開催

地域資源のひとつである薬草を活かし、中国安徽省亳州市との友好交流を進め、健康をテーマとした癒しの空間づくり推進の端緒とすべく、「シンポジウム」を開催する。NPOの実施するオープンカレッジの一環として実施し、「丹後の魅力」を広く市民に理解してもらうとともに、多くの人によってその魅力を**考えてもらうこと**を目的とする。企画運営については講座終了メンバーを中心とした市民参加のグループで行い、NPO・市はアドバイザーとして総合的にバックアップすることとする。シンポジウムは、広く市民を対象とした「丹後学」の文化講演や、11月に実施予定の中国亳州市への交流団派遣を経て、その交流内容の紹介（レポートやスライド上映）などとする。

### 5 - 3 - 2 市の独自事業

#### 丹後学の振興

- (1) 地域の自然や歴史文化、地場産業などの「匠」の技術を掘り起こし、「丹後学」としてまとめ、学校教育における体験学習や地域学習に活用するとともに、子供から大人までだれでも気軽に学べる学習環境と機会の創出に努めるとともに、より多くの市民が本市の歴史文化に親しみ、次代へ継承してゆけるよう、丹後学の検定試験の創設や学校教育、社会教育など様々な機会を通じて活用を推進する。
- (2) 本市の歴史や文化財分野のスペシャリストとしての「京丹後市文化財博士」の登録制度を設置するとともに、広報誌やホームページ等を活用した情報提供や郷土史研究会、自然保護団体等の市民活動との連携などを通じて、「丹後学」の研究振興と普及に努める。

#### 薬草活用支援事業

市内の薬草を植栽した温泉施設をモデルとして、心身リフレッシュに関する資源調査を行い、それを基に資源活用方策を検討する。また、薬草を活用した地域住民のための健康づくりへの取り組みに対し、積極的支援を推進する。

### 6 . 計画期間

平成17年度～21年度

### 7 . 目標の達成状況に係る評価

目標については、修了者を市に登録をするとともに、シンポジウムなど広報誌やホームページなどで広く公開する。また、事業の内容の見直しを図るために、NPOメンバーと行政関係者、講座の修了者などと状況等について評価・検討を行うとともに、京丹後市地域再生協議会が総合的に評価を行うこととする。

8 . 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし